

# 緑が丘

校訓  
「ゆたかさ・たしかさ・たくましさ」  
学校教育目標  
「認め合い、学び合い、高め合う生徒の育成」

平戸市立田平中学校  
学校だより第16号  
(令和4年 9月)  
文責 西澤 庄藏



「伝える力」をキーワードに今学期に臨む思いを発信した、その補足説明です。

## 「一秒の言葉」

「はじめまして」	この一秒ほどの短い言葉に	一生のときめきを感じることもある
「ありがとう」	この一秒ほどの短い言葉に	人の優しさを知ることがある
「がんばって」	この一秒ほどの短い言葉で	勇気が蘇ってくることもある
「おめでとう」	この一秒ほどの短い言葉で	幸せにあふれることがある
「ごめんなさい」	この一秒ほどの短い言葉に	人の弱さを見ることもある
「さようなら」	この一秒ほどの短い言葉が	一生の別れになるときがある
一秒に喜び	一秒に泣く	一生懸命 一秒

【『一秒の言葉』小泉 吉宏 著（メディアファクトリー）】（抜粋）

数年前、この詩を朗読した時計メーカーのテレビCMを観て以来、ずっと気になっていました。今回、修学旅行出発式挨拶で引用したこともあり、私なりの思いも含めて掲載するに至りました。

本校教育目標の「認め合い」「学び合い」「高め合い」は相手と切磋琢磨してこそ成り立つ言葉です。相手を意識しての発信すること（分かりやすく伝えること）を一括りに「伝える力」と称して（この言葉を胸に秘めて）成長してほしいと今学期冒頭の始業式で訴えたことは前回の学校便りでも述べたところです。

さて、日常生活では自分の思いを相手に分かりやすく工夫して伝えているのでしょうか。言葉は人と人との関係を築いて良い雰囲気醸し出すために大切なものです。上の詩を引用するたびに言葉の秘めている力についてつくづく考えさせられます。

一つの言葉に込められた意味の重さを考えて発信して、受け取る側もいろいろなことを言葉から相手の真意を感じ取ることでできる感性豊かな生徒たちを育てていかなければならないと常々思っています。そのため、学校生活でも相手を意識した言葉遣いができるよう今後も指導・支援し続けていきます。ご家庭でも、時折、お子様とともに考える機会をつくっていただけたら幸いです。

たった一秒の短い言葉でも、相手の心を温かくすることができます。が、同じ一秒の言葉でも、相手を傷つける言葉もあります。何気に使っている言葉こそ大切にしなければいけないし、心を込めて使わなければいけません。相手の立場に立つとは人からどんな言葉をかけられたら嬉しいかを考えることです。まずは、このことを意識して会話したいものですね。

## 【折々の出来事から】（修学旅行の一風景から）

先般の修学旅行で印象に残った一コマから。知覧特攻平和会館で語り部を務める「輝き人」との出会いがありました。その人は、察するに私よりかなり年上で、「第2の人生」を語り部（恒久平和を語る伝道師）として地元生まれ育った使命感を持って文字どおり「懸命に」遂行していました。明瞭かつ説得力のある話しぶりで、あっという間のひとときを感じました。スライドを多用するなど飽きさせない工夫もあり、正に「伝える力」の達人でした。同日2年生職場体験学習が行われたように、キャリア教育を重視した「社会に開かれた教育課程」として見直されている昨今、この語り部さんのはつらつとした態度に、「働きがい」が「生きがい」につながることを感じたのは私だけではなかったのではないのでしょうか。その語り部さんは修学旅行団に「よく話を聞いてくれてありがとう」と感謝の言葉で話を締めくくりました。その表情はひときわ輝いて見えました。昔（いにしえ）の陸軍特攻基地だった知覧で「社会とのつながり」に働きがいや生きがいを見出している「輝き人」を目の当たりにした印象深いひとときでもありました。



このほか、知覧特攻平和会館では、館内に展示された遺品の数々、特に、肉筆で綴られた遺書に、胸が締め付けられる思いでした。過去の惨状を目の当たりにし、現在の平和を考えるきっかけになりました。

写真は撮影が許可された場所での戦闘機の一部です。海没していたものを引き上げたボロボロの実物（写真：左）に、戦争を経験したことのない私でさえ当時に引き寄せられる思いでした。